

戦前政治家の暴走

誤った判断が招いた戦争への道

篠原昌人 著 四六判ソフトカバー 240頁 定価（本体 1,900円＋税） ISBN978-4-8295-0614-1

“戦時において強硬論を吐くのはきまって軍人” というのは早合点！
文民政治家の判断が国を誤らせた事実を、
3人の人物をとりあげて明らかにする



事実上の外相として
対中国強硬外交を推進

森 恪

田中義一内閣の外務政務次官
犬養内閣の内閣書記官長



責任ある立場にも
かかわらず戦況の悪化に手を打てず

広田弘毅

外務大臣
内閣総理大臣



近衛文麿新党結成を画策
軍部と無産勢力の連携を求める

麻生 久

戦前の無産政党
社会大衆党の党首

序章 勇ましき論者の群れ 一強硬論を吐くのは軍人だけではない
強硬論を吐いた七博士と七名士／外務大臣が開戦を主導した日清戦争／シベリア出兵を主張した九博士と外務官僚

第一章 森 恪 —— 満蒙生命論の先駆者

満蒙問題という魔語

一、田中義一を操る男

オラが義一の実像／外務省を支配し東方会議を主宰／居留民保護という問題／第一次山東出兵——「田中が出兵に同意しなければ総裁を引退させる」／シベリア出兵の裏側

二、引きずりこまれた第二次出兵

謎の日中首脳会談／出兵に反対した陸軍／第二次山東出兵は文民政導の政略出兵／蒋介石は日本の出兵を望んだ／山東出兵余話

三、封じられた和平

破天荒な革命外交に対処する幣原外交／関東軍が暴走した満洲事変を追認した若槻首相／犬養内閣書記官長に森が就任／森書記官長、信念の暴走

第二章 広田弘毅 —— 中国侵略の協力者

奇怪なる広田駐ソ大使暗殺騒ぎ

一、斎藤・岡田内閣の外務大臣

満洲事変の終結／広田の代名詞、万邦協和外交／日本の排他的独善性をさらけ出した天羽声明／須磨弥吉郎南京総領事の対支静観主義放棄論／結局、外交を放棄した広田／中国の三原則と日本の三原則には天と地の開き／北支分離工作への協力

二、広田内閣は「軍部内閣」

陸軍の政治介入による組閣／軍部大臣現役制復活の意味

三、近衛内閣外務大臣

中国政策の転換／迷走する広田外相／戦いの本質を見抜いた辻政信の観察／外務大臣広田の暴走

第三章 麻生 久 —— 夢を見た革命論者

社会大衆党安部磯雄党首襲撃の狙い

一、無産階級の旗手

労働運動への突入／足尾銅山で労働運動に／無産政党に接近する軍部／「陸軍パンフレット」の熟読を黨員に訴える

二、一国一党という夢想

社会大衆党の躍進／「時代の与党」となった社会大衆党／社会大衆党解党は最後の「暴走」／永田鉄山との幻の密約

3月上旬 新刊搬入予定です

配本部数申込締切は 2月15日（火） です

FAX 03-3813-4615

芙蓉書房出版
〒113-0033
東京都文京区本郷3-3-13
http://www.fuyoshobo.co.jp
TEL. 03-3813-4466
FAX. 03-3813-4615

発行 芙蓉書房出版	注文数	注文者
戦前政治家の暴走		
3月新刊 本体 1,900円	部	